

題名 派遣事業で思ったこと

鹿沼市立北中学校 (氏名) 大島 有陽



私は、今回の派遣事業を通して、「多くの人類が核兵器の恐ろしさについて無知である。」という耐えがたい現実を知りました。資料館での展示や、被爆体験講話などを通して学んだ原爆の実相は、想像を遥かに超えていました。このような情報を発信し続けているのにも関わらず、いまだに世界には多くの核兵器が存在し、それらの製造や所持に賛成する人が多くいることに憤りを感じました。また、同時に「自分たちも発信していかなければならない。」と強く思いました。

派遣事業に参加する生徒は、皆一人一人の学びへの意欲が強く、すべての活動において充実していました。これからも、この派遣事業を続けて行ってほしいです。